

## ご挨拶



豊橋技術科学大学  
特任教授/名誉教授  
未来ビークルシティアリサーチセンター

### センター長 大平 孝

平成 27 年 4 月に第 3 代未来ビークルシティアリサーチセンター長を拝命し、本年で 7 年になります。本年度でセンター長としての最後の年を迎える運びとなりました。

第 3 フェーズでは第 2 フェーズに引き続き、ビークル社会において持続的に発展する安全・安心都市の創成を目的とし、CO<sub>2</sub>を低減する「低炭素社会」と少子高齢化に伴う「安全・安心社会」を重点課題として掲げ、その解決に取り組んで参りました。ワイヤレス給電、新しい電池技術の研究開発、自動車の知能化、ワイヤレス情報通信、予防安全、交通マネジメント、未来ビークル普及の社会経済への影響評価手法に関する研究、省エネルギーの資する自動車の研究など、低炭素でかつ安全安心な交通社会システムを目指して参りました。

第 3 フェーズの研究成果について、まず触れておかなければいけないのは、本学で国内外のリーディング企業やトップ研究機関との協働研究を進めることで本学の研究力を向上させることを目的に、「技術科学イノベーション研究機構 (RITI)」が設置 (平成 28 年 4 月 1 日) されたことです。RITI の大きな役割は大学と企業との大型マッチングファンドによるイノベーションの創出です。本リサーチセンターにおいてもこのプロジェクトを活用し、社会実装に繋がる研究開発を進めて参りました。具体的にはまずワイヤレス給電に関する技術開発です。「電界結合方式」を開発し、バッテリーレス小型電気自動車や工場内搬送用 AGV の走行中給電を可能にしました。これらの研究成果をベースに、産業用ドローンへの充電用途として駐機時充電ポートの開発を進めています (内閣府: SIP 事業 (H30-R4))。軌道に制限されない小型モビリティへの走行中ワイヤレス電力伝送の研究開発を進めました (愛知県: 知の拠点あいち事業 (R1-R3))。 (企業と共同で電界結合方式ワイヤレス給電技術を利用した無線給電道路システムの実用化を目指した研究開発を進めています (国土交通省: CART (R2-R5))。この研究以外にも交通安全マネジメントとして、「次世代路面標示 (路面標示 2.0)」の社会実装化や「地域に根付くビッグデータ活用型道路・交通安全マネジメント」を研究テーマに、特に豊橋市による実証実験などを通じて「豊橋モデル」の確立を目指しました。

2021 年は大きな節目の年になりました。大学発ベンチャー企業「株式会社パワーウェーブ」を発足させました。(豊橋技術科学大学 大学発ベンチャー第 3 号) さらに同年、「国立大学法人豊橋技術科学大学と富士ウェーブ株式会社、山梨県との連携の推進に関する協定」を締結いたしました。この協定に基づき、3 社で連携してワイヤレス電力伝送技術に関する最新情報の共有、研究開発の推進及び普及促進に取り組んで参ります。

本リサーチセンターは来年度も継続して活動して参ります。毎年飛躍を遂げるこのリサーチセンターに今後ともご支援の程、宜しくお願い申し上げます。